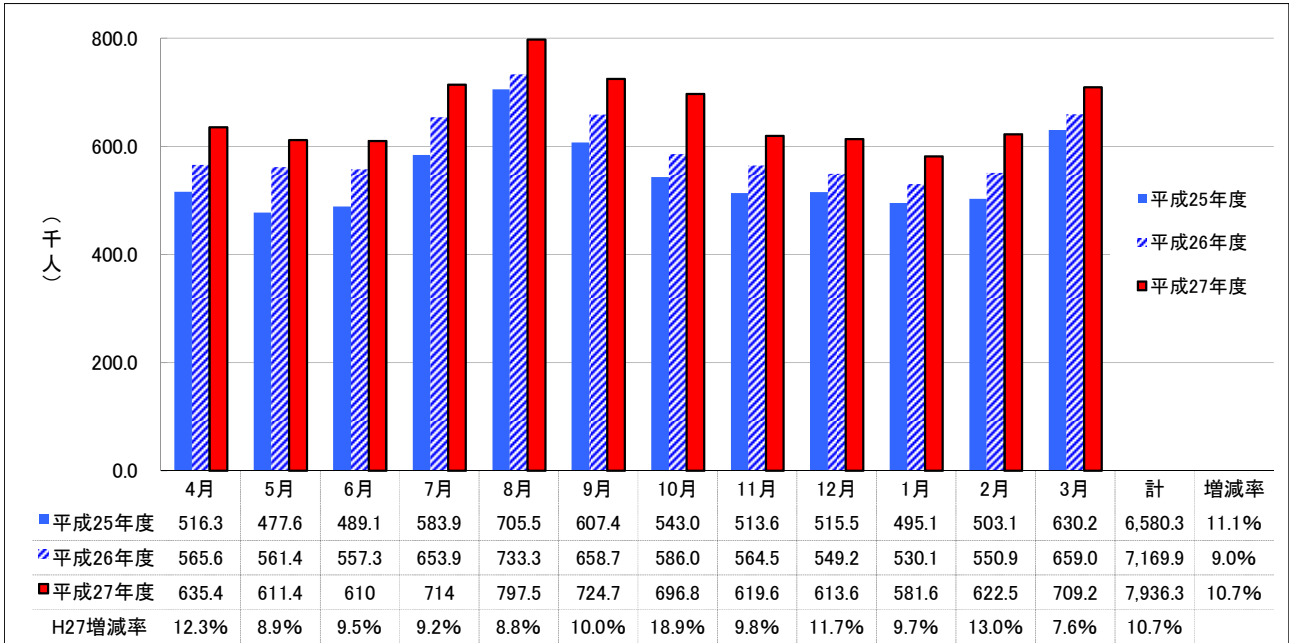


平成 27 年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 28 年 4 月発表

平成 27 年度の観光客数は、793 万 6,300 人で過去最高
対前年度 (H26) 比 +76 万 6,400 人、+10.7%

■月別入域観光客数の推移（平成 25 年度～平成 27 年度）



■平成 27 年度の概況（総括）

平成 27 年度の入域観光客数は 793 万 6,300 人で、対前年度比で 76 万 6,400 人、率にして 10.7% の増加となり、3 年連続で国内客・外国客ともに過去最高を更新、800 万人に届く勢いとなった。

また、前年度に続き、月別では、全ての月において前年同月を上回るとともに、各月の過去最高記録を更新した。

前年度と比べて増加した要因は次の通りと考えられ、特に外国客の増加が大きく寄与している。

- 年度全体として円安傾向であったことに伴う国内および訪日旅行需要増
- 海外航空路線の拡充・クルーズ船の寄港回数増による外国人観光客の大幅増
- 国内外における官民上げての継続したプロモーション活動

■平成 28 年度の見通し

景気は緩やかな回復基調にあることや、各航空会社による航空路線の拡充があることから、国内観光地との競合が想定されるものの、国内旅行市場は堅調に推移するとみられる。

また、外国客については、東アジアの主要国・地域において航空路線拡充の動きがあることや、クルーズ船の寄港回数が昨年を大幅に上回る予定となっていることなどから、引き続き、好調に推移するものと見込まれる。

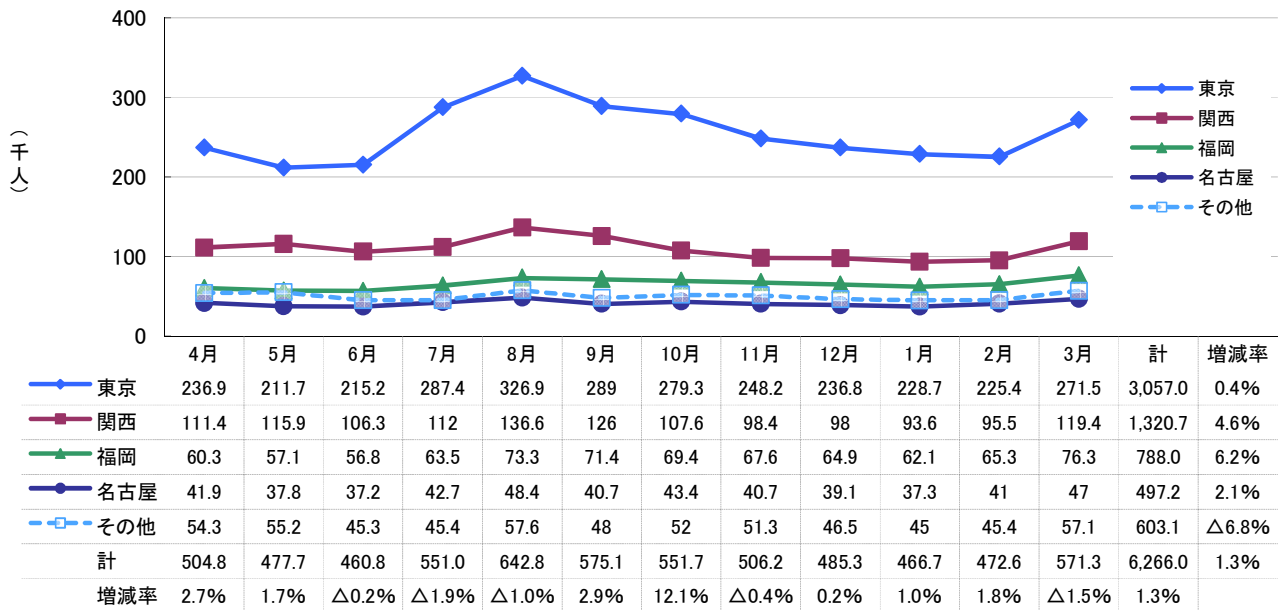
秋には、大規模な学術会議や、第 6 回世界のウチナーンチュ大会が予定されており、国内外からの誘客効果が期待出来る。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

平成 27 年度の国内客は、626 万 6,000 人で、対前年度比で 8 万 2,100 人、率にして 1.3%の増加となり、過去最高となった。これまでの国内客の過去最高の入込は、平成 26 年度の 618 万 3,900 人。

■平成 27 年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

平成 27 年度は夏場の数回にわたる台風の影響があったものの、景気回復基調が継続し、全体として国内旅行需要は堅調に推移した。国内観光地との競合が懸念されたが、羽田－石垣や福岡－那覇路線の拡充や、関西方面が好調であったこと、成田及び名古屋－那覇路線の新規就航を含む LCC を中心とした航空路線の拡充などにより、前年度を上回った。

【方面別の動向】

東京方面 成田路線の入込は減少したものの、羽田－石垣路線において提供座席数が増加したことなどにより羽田方面で好調を維持し、前年度並みとなった。

関西方面 LCC を中心とした関西－那覇路線の入込増が全体を押し上げるとともに、数年ぶりに再開した関西－宮古路線が好調であったことなどから、前年度を上回った。

福岡方面 福岡－那覇路線において提供座席数が増加したことなどにより、入込客数が好調を維持し、前年度を上回った。増加率は主要方面で最も高かった。

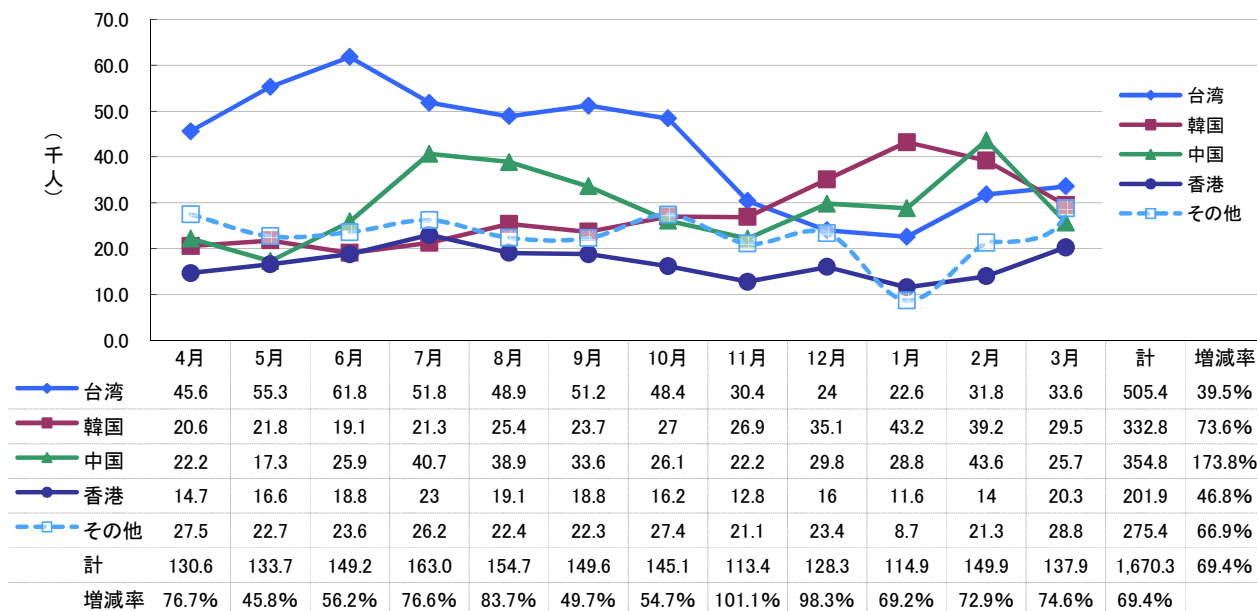
名古屋方面 LCC 等の名古屋－那覇路線の新規就航などにより全体の入込客数は堅調に推移し、前年度を上回った。

外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

平成 27 年度の外国客は、167 万 300 人で、対前年度比で 68 万 4,300 人、率にして 69.4%の増加となり、国内客同様過去最高となった。これまでの外国客の過去最高の入込は、平成 26 年度の 98 万 6,000 人。

■平成 27 年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



■外国人観光客の概況

平成 27 年度は全体として円安傾向であったことに伴い、訪日旅行需要が高かったことに加え、重点市場（台湾、韓国、中国、香港）において路線の新規就航および既存路線の増便があり、空路客が増加した。

また、クルーズ船の例年より長い運航期間と寄港回数増により、海路客も大幅に増加した。

【国籍別の動向】

台湾 台北-那覇路線の増便やLCCの新規就航に加え、クルーズ船寄港回数の増加により、空路・海路客ともに増加、過去最高を更新し、初の 50 万人台となった。

韓国 ピーチアビエーションや韓国LCC3社の相次ぐ新規就航などにより航空路線が拡充し、空路客を中心に増加、過去最高を更新し、初の 30 万人台となった。

中国本土 天津や杭州などの相次ぐ新規路線の就航や、中国発クルーズ船の増加により、空路・海路客ともに増加、初の 30 万人台を記録し、台湾に次ぐ入込となった。

香港 既存の航空路線の拡充や、香港発クルーズ船の寄港などにより、空路・海路客ともに増加、過去最高を更新し、初の 20 万人台となった。